

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム こうえい館	評価実施年月日	2009年3月10日
評価実施構成員氏名	西野 山口 柚原 山本 佐伯 太田 高橋		
記録者氏名	江上 かおり	記録年月日	2009年3月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域を散歩してお庭の花や野菜に興味のある方、近くのスーパーに好みのおやつを買いに出掛けたい方、近隣の小中学校の行事や運動会を楽しみたい方、公園で軽スポーツを楽しめる方、それぞれのその人らしさを見つめ、その日らしく生きる事を理念に掲げ取り組んでいる。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を暗記し、その内容について勉強会で話し合う等して理解を深め、ケア計画を立てるときやケア提供中も、理念に基づき行えているかどうか振り返りながら行っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>理念を玄関に掲示し、家族や地域の方が来館の際いつでも見る事が可能である。又、運営推進会議の時には地域との関わりある暮らしについて、説明させて頂いている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩時、お庭先でお花の話題で立ち話したり、通りがかりに庭のぶどうを頂いたり、秋の味覚のおすそ分けをしたり、回覧板を持っていったり、館前を通る子供達と挨拶したりおしゃべりしたり等、気軽に自然にお付き合いしている。又、町内の居酒屋さんのランチを食べに出かけた事もあり、そこのご主人とは顔見知りになっている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会費を支払い町内会に入会しており、輪番で班長その他の役割を行う事になっている。又、廃品回収や町内清掃など、出来る事は行い、近隣小学校の盆踊り参加や、中学校の職場体験学習を受け入れたり、地域とのつながりはいろいろある。</p>	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>昨年予定していた、地域の方対象の認知症サポーター養成講座は、実施できていない。</p>	<p>○ 地域の方に認知症に理解を深める事で、認知症になっても安心できる地域作りを考えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価は職員皆で取り組みの現状を見つめながら話し合いを持ち、その内容を管理者がまとめ作成している。又、昨年の外部評価で指摘された点で改善も行っている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>今年度は委員にお願いした方が都合、仕事等で参加困難が多く、運営推進会議を生かした取り組みが出来なかった。内容は主に入居者代表の方の思いや生き方を話して頂く事であった。</p>	<p>実際参加できる方への委員の依頼を考慮する事と、地域とのつながりを重視した会議を考えていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の集団指導に運営者、管理者が出席し、その内容を勉強会や申し送り時に職員に伝え、より良いサービスを考えている。昨秋市の査察があり、指摘された点の改善も行った。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>外部の研修や、勉強会等の内部研修でも学ぶ機会を持っているが、活用する機会がまだ発生していない。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修会参加で学ぶ機会を持っており、勉強会等で研修報告として職員に伝えている。また管理者は入居者の日々の暮らしぶりや様子、職員との関係などの把握に努め、虐待を見逃さないようにしている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時、運営者と家族が話し合いの時間を持ち、十分な説明後、入居契約書を取り交わしている。又、退去時も退去後の生活の相談に応じる事もあった。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者が日々の生活の中で感じている施設環境、備品等についての不都合や困っている事があれば、運営者に相談し対処している。		今後も入居者が日常の中で、管理者や職員に意見が表しやすい雰囲気作りを、続けていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月の館だよりにて全体的な行事や生活の様子を載せ、おこずかいの出納帳のコピーと共に郵送している。又個別には、家族が来館の際に、管理者や職員から、最近の出来事、健康状態や認知症状等について会話をもち、体調不良や怪我、主治医からの指示などあれば、随時連絡、報告、相談を行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	特に、意見など表す家族はいなかった。		ご家族が日頃思う事、意見、苦情など管理者や職員に話し易い雰囲気作りを心掛けていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が職員の意見提案を聞き、定期的な会議などで運営者に伝える機会が設けられている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務シフトには毎日待機者が組み込まれており、必要が生じた時には人員確保が出来る。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	昨秋、職員1名退職しているが、入居者への支援は支障なく行えている。		4月より、新卒者の職員が1名入る予定である。人的環境の変化なので、変化に敏感で、不安になりがちな認知症の方への配慮を特に気をつけたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人は、管理者や職員に、必要な外部研修に積極的に参加させ、育成に力を入れている。外部研修者には必ず勉強会で内容発表し、学びをスタッフ全員で共有できるようにしている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者は地域包括支援センター主催の研修等に参加し、豊岡地区のグループホームの方々と、事例検討や交流を行っている。職員は協議会道北ブロック主催のスタッフ研修等に参加し、勉強や交流の機会がある。しかし、職員同士の自由な相互訪問の活動はしていない。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>狭いが休憩がとれる場所があり、管理者が職員と個別に体調等の様子を尋ねたりもしている。又、観桜会や忘年会において親睦交流の場があり、ストレス軽減につながっている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>法人は、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士等各種資格に挑戦するよう勧めており、資格手当もある。又、認知症ケアの実践力の向上のための指導にも力を入れ、やりがいのある職場作りを目指している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>昨年2名、今年1名、新しい入居者さんを迎えている。入居前に、病院や自宅へ面談に出向き、心身状況や認知症状等について、ご本人との会話の中での把握を重要と考えている。</p>	<p>面談時、安心感や良い印象を持って頂き、より良い信頼関係が築けるよう、話術を更に向上させたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前、ご家族の思いを把握出来るよう、十分な聞き取りを心掛けている。そして、ケアについて求める事を受け止め、ケアプランに組み入れ、実現を目指している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人にとって、1番困っていて、すぐに必要な支援は何なのかを、ご家族と相談話し合いを進める中で見つけるよう努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にご本人が来館し様子を見て頂く事もあるが、認知症の状態によっては、ご本人の納得の無いままの入居とならざるを得ない事もある。「帰りますので…」との思いが強い中、馴染みの関係や安心を得るためのケアの工夫も行っている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は入居者さんと共に庭仕事や家事等、生活全般において助け合い、良い関係を築いている。過去の苦労話や生活の知恵、人としての在り方や感謝の気持ちを持つ等、人生の先輩として、私共が学ぶ事は多々あり、まさに支えあう関係である。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人にとって何が嬉しいと感じられるか、安心できるか、必要なか等、来館や受診の際会話をもち共に考えている。又、問題が発生した時は、すぐに連絡を取り、話し合い、より良い支援のために共に考え、協力しながら解決に向け、支えあっている。		今後もご本人を中心に、共に考えていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者さんはご家族の方々と、外出、外食、帰宅、通院など、それぞれの状況、都合、認知度に合わせ、自由に関わり合って頂けている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	希望があれば馴染みの場所に出かけたり、入居前の親しいご近所の方が来館されたりしている。又、入居前親しく交流のあった方宅へも、ご家族の了解を得て頻りに訪問しており、思いに添った関係を維持できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	それぞれ、好ましいと感じている相手、苦手で嫌だと感じている相手があり、辛くなる と居室に引きこもってしまう等もある。認知症により、事実とは違う思い込みもある 中、お互いストレスにならない組み合わせで関われる様、困難が多い中取り組んで いる。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的 な関わりを必要とする利用者や家族には、 関係を断ち切らないつきあいを大切にしてい る。	入院退去後亡くなられた方の長女さんが、入居者さんや職員に会いに来て下さる事 があり、快く感じる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意 向の把握に努めている。困難な場合は、本 人本位に検討している。	会話や行動から探ったり、希望要望がないか声掛けしたり、気持ちを伝えて頂き易い よう雰囲気作りに配慮したりしている。又、意向を表せない方には、ご家族からの聞 き取りや、表情やしぐさ等からの推察により、把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし 方、生活環境、これまでのサービス利用の 経過等の把握に努めている。	ご家族から十分な聞き取りを行い、把握に努めている。又、入居前のサービス利用 の際のケアマネさんや担当の方からも、サマリー、聞き取り、面談等で基本情報を集 めている。その内容はセンター方式のシートに記録している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状を総合的に把握するよ うに努めている。	毎日の様子を観察し記録することで、細かい変化等も見逃さないよう努めており、思 いや出来る事、出来ない事、困っている事、必要な事、ケアのアイデア等をセンター 方式 C D Eシートに記録し、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、介護支援専門員の適切な 監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と 話し合い、それぞれの意見やアイデアを 反映した介護計画を作成している。	日々様子から課題を見つけ出したり、問題点を話し合ったり、直接ケアを行っている 職員から多くの意見を出してもらいながら、介護計画を作成している。ご家族にも 要望等伺っているが、それぞれ忙しさもあり、活発な意見等はなかなか頂けていな い。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間は3～4か月だが、変化の急激な方、退院で状況の変わった方等には、スタッフ全員で状態把握をしたり、ご家族の意向、医療者の意見も伺いながら、期間途中でも見直し、変更を行い、心身の状況に応じた必要な支援が出来るよう努めている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランは個人日誌にファイルされており、毎日内容を確認しながら、具体的な実践記録を記入している。計画作成担当者は日常的に記録確認し、情報を共有し、入居者さんの様子も見ながら、次の介護計画の見直しに活かしている。		より良い記録記入や評価が出来、気づきや工夫が増えるよう、今後も努力していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人で所有している複数ある車両を利用し、受診、入退院の送迎や、花見、ドライブ、遠くの大型店への買い物等の外出支援を行っている。ご家族の都合や状況に応じ、帰宅送迎や荷物運びも行った事がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣中学校の体験学習の受入れ、音楽ボランティアの活用、消防署の協力を得ての通報訓練、避難訓練を行っている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要性に応じ他のサービスの利用を考慮している。歯科衛生士による口腔内の相談をしてケアに役立てた事があり、病状悪化時の訪問看護利用の検討を、ご家族としたことがある。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は協働をしていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>法人と提携している医療機関を利用し往診を受けている方、入居前からのかかりつけ医を利用されている方がおられ、状況に応じた受診支援や相談を行っている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>専門医に診断から関わり、定期受診している方がいられる。</p>		<p>長期的な経過観察をしながら、専門医と相談しやすい良い関係を築いていきたい。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>医療連携ケアがスタートして1年8か月になり、看護師より日常の適切な健康管理や医学的アドバイスも受ける事が出来ている。又、職員に分かり易く医療的な知識も得ることが出来、大変助かっている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>ご家族と共に医師から病状や治療計画等の説明を受けたり、グループホームでの生活状態を担当看護師に認知症状も含め詳しく伝えたり、連携に努めている。又、入院中の状態の変化や退院後の生活の相談を受けたり、ご家族との連絡を密にとっている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>病状の変化、悪化の可能性も含め、医師からの説明を家族とともに受け、話し合いを行っている。ご家族やご本人の希望を中心に考えている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>体調変化や重度化した場合には、かかりつけ医や看護師と共に支援に取り組んでいるが、終末期ケアの経験は少ない。</p>		<p>個々のケースに応じ、ご本人やご家族の望む終末期ケアを考えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご家族や担当者との話し合いや情報交換により、不安や戸惑いを最小限に抑えられるよう考慮している。昨年自宅へ戻った方には、担当区域の地域包括支援センターとの連携を行った。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>認知症による失敗や失行、失禁等は他の方に見られぬ様、素早い対応、処理を心掛けています。又、他者との関わりを日誌に記録する時は、相手の方をイニシャルで表記する等、プライバシーや個人情報を守る取り組みを行っている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>食べたい、出掛けたい、買いたい等、思いをはっきり表せる方には、過度になり過ぎないように、思いに添って支援している。又、希望が表せない方にも理解力に合わせた会話をしながら、中から選ぶという形で、飲み物、衣類等、日々の細かな決定をして頂いている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>雪はね雪割りや、花や野菜の世話や様子見も、危険のないよう見守りの中で、思う時に実行できる援助をしている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外出して美容室に行かれ髪染めもする方、ご家族が来館してカットされる方、希望者には美容師の資格を持った職員による整髪が行われている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食べたい物を伺ったり、会話の中で探ったりして、食の楽しみを持って頂けるよう配慮している。又、麺類を茹でたい方、食材切りの出来る方、配膳下膳、食器拭き、片付け等思いや出来る力に添って、皆で協力し合ってる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	歩ける方は近くのスーパーに出かけ、おまんじゅう、果物等、好みのものを楽しみながら選び購入している。意向を表せない方や外出困難な方は、日常の様子観察や、会話や生活歴の中から探り、提供を心掛けている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を付け、一人一人の排せつ確認が出来る様になっており、時間を見てのトイレ誘導や尿意便意を行動からの推察によるトイレ誘導を試みる等の、援助を行っている。又、認知症により、排泄物を手で触ったり、正しい処理が出来ない方には、トイレと一緒に職員が入らせて頂き、未然に汚染を防ぐ対処を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には月曜日と木曜日に入浴して頂いているが、状況や希望によりいつでも入られる様配慮し、夏場はシャワーをお勧めしている。しかし、体力の低下や倦怠感、認知症状により、入浴拒否もあり声掛けに工夫している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	不安等見られる場合は一緒に付き添う等して、安心して休んで頂ける様配慮している。又、体が冷えて夜眠れないと訴える方には、湯たんぽや足浴で温まって頂いたり、昼間眠ってしまって夜間目が冴えてしまった方には、ゆっくり傾聴対応をすることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	冬場は雪かき雪割り、夏場は庭作業。過去の生活歴に応じ包丁磨ぎ、漬け物作りや料理、花や野菜の世話、縫い物等、出来る力や希望に合わせて、担って頂いている。又、カルタ、パズル、花札、将棋等好みの遊びも楽しんで頂いている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金がないという不安を常に不安を持たれている認知症の方のお気持ちを思いながら、事務所で預からせて頂いている。様子状況に応じ、適量適額の買い物支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出したいと自ら意思を表せる方にはもちろん、意思を表す事が困難な方にも、表情、健康状態、行動を見極めながら散歩や外出を支援している。あらかじめ予定された外出は少なく、その日の気分、天候、状況に合わせた、予定外の外出が多い。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	皆さんの希望をお聞きしながら、いちご狩り、ぶどう狩り、どんど焼き等に出かけ楽しんで。花見をしながら外で食べたお弁当がおいしかったと喜ばれたり、昨夏突然飛行機が見たいと言われ、旭川空港までドライブし、離発着を見て感動されていた姿もあった。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	遠方のご家族から物品が届いた時、必要な物が欲しい時、事務所の電話を使って頂いている。又、身内の方に連絡したい気分の時、家に帰りたい気分や不安な気持ちになった時、ご家族の了解のもと、落ち着ける対応の一つとしても電話かけを援助している。年賀状、絵手紙のやり取りも援助している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に来館して頂き、家族でゆっくり過ごせる様配慮している。尚職員は、接遇の研修に参加している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者が身体拘束廃止推進委員研修会に参加し、その内容を勉強会で職員に伝えている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は施錠せず、職員がしっかり見守りすることで、自由に開放的に過ごして頂ける様配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はさりげない見守りの中で自由に活動して頂き、危険がないか気を付けている。夜間は時間を決めての巡回の他、入居間もない方、体調不良方の状態に応じ、こまめに様子観察を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	認知症の状態に応じ、ナイフ、ハサミ、爪切り、裁縫道具等お預かりして、必要時、職員が見守りの中使用したり、介助したりして危険を防いでいる。又、入居時自立していても認知症の進行でお預かりする事もある。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	館内のハザードマップを作成による危険個所の把握、玄関通過を知らせるセンサーチャイム設置や手すり取り付け等を行っている。		事故が起こった時や、ヒヤリとした時は、原因や要因を探り、更に防止に取り組みたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	勉強会で、医師や看護師による、介護者として必要な医療知識の講義を受けたり、救命救急講習の消防隊員を招いて、救急時の応急手当や心肺蘇生法を学んだり、高齢者介護の緊急事態マニュアルの本で学習したりしている。		今後も入居者さんの個別の疾病についての知識を深め、急変に対して今以上に対応できる様にしていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時の避難訓練を入居さんと年2回行っている。又、管理者が災害時高齢者生活支援講習を受講し、安全避難や対応について考えている。		災害について考える機会を増やし、地域の人たちへの働きかけを行っていききたい。旭川市の指定する避難場所にて防災研修が開催され、管理者が受ける予定である。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	機能低下による、転倒、誤嚥、喉詰まり等、可能性があればご家族にも伝え、話し合いを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日、厨房、ふきん、まな板等の消毒を行い、台所作業前の手洗いを入居者さんにもお願いし、衛生に努めている。食材は近くのスーパーで、新鮮、安全、期限に気を配りながら購入している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りに花を飾ったり、季節の飾りを置いたりして、話題を膨らませる事が出来ている。又、犬の散歩で館前通る方とも良い会話を持っている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>正月、節句、クリスマス等季節感ある飾りを施したり、写真やカレンダーの配置を入居者さんと協力して考えたり、居心地良さを考慮している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングにはゆったりくつろげるソファがあり、家庭的な雰囲気、入居者さん同志会話したり、お茶飲みしたり、自由にされている。又、トイレ以外居室から出てこられない方の生活状況や思いを考え、廊下に椅子を置きゆっくりして頂ける場所を、狭いながら作ってる。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時ご本人の馴染みの家具や道具等持ってこられ使用している。住みよい空間にするため、ご家族と随時相談したり、考えたりしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>長年使用しているストーブが古くなると灯油臭が出、何台か交換している。室温は個人の発汗状態や寒暖の感じ方や体調を考慮し、調節している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>起き上がりや歩行時に不便を感じる方に必要な手すりを取り付けている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>各居室入口にネームプレートを付けているが、認知症により分らない時は誘導が不可欠である。もし間違えて他者の居室に入っても、文字が読めれば「00さんのお部屋です」と伝えれば、納得して貰える。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>花や野菜を植え、職員と入居者さんが協力して育て収穫し、飾ったり食したりしている。又、外の物干しにも夏場自由に出て、干しもの作業を生き生きとされていた。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

過去の生活歴をご家族からお聞きしたり、ご本人の口からいろいろ伺ったりしながら、そばを打ったり、漬け物をつけたり、包丁を磨いたり、花の世話をしたり、野菜を作ったり、着物を着付けたり、出来る力を発揮して頂き、その人らしい生き方を探りながら支援している。皆で助け合いながら、生き生き活動したり、のんびりゆっくりしたりしながら暮らしていきたい。